

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	東京都	市町村名	国分寺市	大学名	
派遣日	令和3年8月3日(火曜日) 午前10時～正午				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	国分寺市役所 第一庁舎3階 第3委員会室				
アドバイザー氏名	東京学芸大学 教職大学院 教授 齋藤ひろみ 氏				
相談者	国分寺市人権平和課, 教育委員会学校指導課, 国分寺市国際協会事務局				
相談内容	<p>本市は外国人散住地域であり、外国籍等の児童・生徒数がそれほど多くないため、問題が顕在化しづらいが、日本語や学習指導について個別の支援が必要なケースが一定程度存在する。教育委員会・学校と国際協会・市人権平和課、および公民館等がそれぞれ支援事業を行っている状況であるが、支援が必要な外国籍等の児童・生徒に対しての一貫したサポートの必要性が高まっている。また、外国籍等の児童・生徒の支援に関する知識やスキルを持った人材が不足していることも課題である。</p> <p>上記を踏まえ、外国籍等の児童・生徒の支援の方策についての助言をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・支援の必要性や内容を的確に判断するにはどのような方法があるか・学校、教育委員会、多文化共生担当部署、国際協会との連携のあり方。・地域社会の中での外国籍等の児童・生徒支援のあり方				
派遣者からの指導助言内容	<p>本市の外国籍等の児童・生徒へのサポート体制について、以下のとおりご助言いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none">・取り出し授業、入り込み授業を行う場合、それぞれの留意点・入り込み授業をサポートするボランティアへの指示のポイント・取り出し授業を行う際の、指導員と担任教員の連携の重要性・日本語指導や学習指導の目標設定について・日本語能力の測定方法として、DLA測定の紹介・学校、多文化共生担当部署、国際協会等の連携の重要性・学校教育の中ではカバーできない課題を、地域や多文化共生部署が解決する工夫と事例の紹介。・外国人児童生徒支援も含めた、多文化共生コーディネーター配置の提案				

(様式3)

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	今回のアドバイザー派遣によって、当市の外国籍等児童生徒支援の内容や体系について、客観的に評価するきっかけとなった。教育委員会と市長部局の横断的な体制整備に必要な視点をアドバイザーから提示していただいたことで、課題が明確になったとともに、教育委員会、市長部局、国際交流団体が個々に行っていた外国籍等児童生徒の支援について、それぞれが連携しトータルでサポートしていくことの重要性を共有することができた。来年度に向けて、「子どもにとって」の視点に立ち、相互連携の強化や事業構築に向けて具体的な対応を検討していく。
--------------------	---

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、[文部科学省ホームページ](#)で公開いたします。